

「海女のまち・鳥羽」海外プレスツアー 海外メディア歓迎晩餐会が開催されました。

平成 28 年 5 月 18 日(水)「鳥羽の食」「料理人の技」「海女文化」を世界へ発信するため、海外からメディアの方々を招へいし、歓迎晩餐会を開催しました。

イギリス、イタリア、カナダ、フランス、台湾など12ヶ国20名のメディアが参加しました。



鳥羽料理研究三重三料会、伊勢調理師会所属の料理人の方々による素晴らしい日本食を堪能いただきました。



伊勢マグロの解体ショーには取材が殺到しました。



2 招請事業の詳細

2-1. 行程

1) 取材行程

▼ 第1日 2016年5月18日(水)

日次	時間	行程
1	11:00	関西空港集合、バスで移動
2	15:00	鳥羽到着 戸田家チェックイン
3	16:00~19:30	鳥羽マルシェにて「食の晩餐会」参加

▼ 第2日 2016年5月19日(木)

日次	時間	行程
1	8:15	ホテル出発
2	8:30 ~ 9:50	ミキモト真珠島 博物館見学
3	10:15~11:30	海の博物館
4	12:00~15:00	海女小屋(相差かまど) 海女インタビュー・昼食
5	15:30	神明神社訪問
6	17:00	戸田家 到着
7	19:30	戸田家 ビュッフェディナー

2 招請事業の詳細

▼ 第3日 2016年5月20日(金)

日次	時間	行程
1	9:00	ホテル出発
2	9:00~10:05	フェリー 鳥羽→答志島へ移動
3	10:10~12:30	鳥島羽市水産研究所 岩尾研究員による海藻のレクチャー
4	12:30~12:30	答志市場セリ見学
5	12:30~14:00	昼食 ロンク食堂
6	14:00~16:00	答志島 フリータイム
7	16:00	寿々波チェックイン
8	18:00~19:30	レイフィールド 夕日鑑賞
9	19:30	寿々波 ディナー

▼ 第4日 2016年5月21日(土)

日次	時間	行程
1	8:00	朝食 ブルーフィールド
2	9:00~9:30	フェリー 答志島→鳥羽へ移動
3	9:30~10:00	鳥羽→伊勢神宮外宮へ移動
4	10:00~10:30	伊勢神宮 外宮参拝
5	10:45~12:15	おはらい町・おかげ横丁 フリータイム

2 招請事業の詳細

2) 実施レポート

▼ 第1日 2016年5月18日(水)



〈写真1-1〉 関西国際空港

欧州、アジア各国および東京から本件プレスツアーへの参加者が、関西国際空港で集合し、一同バスにて戸田家に向かった。戸田家チェックイン後、徒歩で「海外メディア 食の晩餐会」会場へ。



〈写真1-2〉

鳥羽マルシェにて、「海外メディア 食の晩餐会」参加。木田市長、吉川実行委員長などのスピーチについて、鳥羽市側ホスト及び海外メディア参加者が紹介された。

2 招請事業の詳細

▼ 第1日 2016年5月18日(水)



〈写真1-3〉伊勢マグロ解体実演

鳥羽マルシェ屋外ウッドデッキにて、鳥羽料理研究三重三科会松浦貞勝会長による約4.5キロの伊勢マグロの解体デモンストレーションが行われ、プロの包丁さばきを見学。初めてマグロ解体を見学するジャーナリストがほとんどだったようで、興奮気味にカメラなど接写で撮影していた。



〈写真1-4〉現役海女の紹介

現役の若手海女より海女文化の紹介。御潜神事で採ったアワビが披露され、晚餐の調理用に料理長へ手渡された。ツアーが始まる前にジャーナリストに「御食国」、「神饌」という概念をインプットすることができた。



〈写真1-5〉調理デモンストレーション

晚餐用の食事の最終仕上げの工程を取材。刺身など、繊細な盛り付けがとても日本らしいという意見が多かった。晚餐でのメニュー一式全てが少しずつ、撮影用にテーブルに並べられていくというプレゼンテーションだったが、全て揃わないうちに撮影をはじめてしまうジャーナリストも少なくなかった(懐石の献立の順序の知識がない為、と思われる)。



〈写真1-6〉晚餐

日本酒、国産ワインで乾杯し歓迎晩餐会が始まった。各テーブルごとに通訳を配置することで、円滑にコミュニケーションがとれた。最後は、鳥羽市側ホストや料理人全ての関係者に見送られ、「素晴らしいホスピタリティー」と参加者一同感激していた。また、プログラムの進行内容についても「よく計画されている」と評価が高かった。

2 招請事業の詳細

▼ 第2日 2016年5月19日(木)



〈写真2-1〉 ミキモト真珠島

真珠博物館を解説を聞きながら回った。海女のショーでは、参加者一同熱心に撮影をしていた。



〈写真2-2〉 海の博物館

海洋文化を館長の石原義剛さんに説明頂いた。海女文化のユネスコ無形文化遺産登録を目指していること、生態系の話、など多角的な観点から説明頂き、参加者からの質疑応答が絶えなかった。専門性の高い館長の話が興味深く、ダイアログが長引き、博物館そのものを見学する時間はあまり無かった。



〈写真2-3〉 海女小屋 相差かまど

海女小屋にて、海女にインタビューとランチ。
貝類と干物を焼いたものを頂いた。
女性参加者は、海女の白い装束を着て写真撮影などを楽しんだ。
コスチュームを一式買いたい、という意見もあった。



〈写真2-4〉 海女漁 取材

沖から、海女漁を見学。フランス人のステファンは、別途ダイビングスーツと海中カメラを用意し撮影を行った。イタリアのライフゲート社は、オンラインで中継レポートを行っていた。

2 招請事業の詳細

▼ 第2日 2016年5月19日(木)



〈写真2-5〉 神明神社

少し時間に余裕が出来たので、海女小屋から徒歩10分程度の場所にある神明神社（石神さん）を参拝。特に女性の願いが叶うということで、皆思い思いの願い事を書いていた。



〈写真2-6〉 海女の家五左屋

神明神社の帰りに、五左屋で休憩、真珠パウダー入りのアイスクリームなどを食べたり、紫蘇ジュースを飲んだりした。夕方5時前には旅館に戻り、温泉などに入ってリラックスできた。

2 招請事業の詳細

▼ 第3日 2016年5月20日(金)



〈写真3-1〉鳥羽水産研究所岩尾研究員海藻レクチャー

答志島へフェリーで移動し、港でレクチャーを聞いた。海藻の話に留まらず、答志島の話、漁業制度、海女文化の話、美味しい海苔の食べ方など質問は多岐にわたった。ライフゲートは、別途個別に取材を行っていた。



〈写真3-2〉答志市場セリ見学

港のすぐ隣の答志市場のセリを見学。テンポよくセリが行なわれている様子を追いかけて撮影を行った。



〈写真3-3〉ロンク食堂

ロンク食堂で昼食。岩尾研究員に、炙りたての焼き海苔を差し入れして頂き「美味しい海苔」を体験。ロンク食堂の「島らしい」気さくな雰囲気は参加者に好評だった。食後、タイ人のスワパスさんはロンク食堂のおかみさんに個別インタビューを行った。



〈写真3-4〉レイフィールド夕日鑑賞

レイフィールドでの夕日鑑賞は、和やかに参加者同士の撮影大会となった。

2 招請事業の詳細

▼ 第3日 2016年5月20日（金）



〈写真3-5〉 寿々波 デイナー

メディアツアー最後の晚餐は、寿々波の社長の心のこもった英語スピーチで始まり、最初で最後の日本式宴会スタイルの晚餐となった。



〈写真3-6〉 寿々波 デイナー

前菜からデザートまでのフルコースを堪能した後は、参加者全員でカラオケ大会となり交流を深めた。

■ 他、全体の行程に関する気づき・感想・意見など

- 全体的に詰め込み過ぎないスケジュールで、適切な時間配分だった。交通手配などスムーズで、時間に比較的厳格なドイツ人からも「よくプランニングされている」とのコメントを頂いた。
- 大人数だったが、特に疲労や体調不良を訴えるものはいなかった。
- 訪問場所ごとに個別インタビューを行いたがるジャーナリストがいたが、限られた時間内で最大限対応した。
- 記事に掲載する為の情報として、訪問先の主要人物の名前、年齢、職業を英語で確認されることが多かった。
- 大人数だったので通訳レシーバーが大いに役立った。また、初日の晚餐会の食事の場では実行委員会で手配頂いた通訳の皆様のおかげでコミュニケーションが円滑に進んだ模様。
- いくつかのスピーチをスピーカー自ら英語で行って頂いたことを評価する参加者が多かった。
- 夕食が早めに終了することが多く、その後ラウンジで参加者同士でお酒を飲んだり、カラオケに流れるものがあった（約半数以上）
- 鳥羽→答志島のフェリーはクルージングという体験としても魅力的だったようでほぼ全員デッキの上に登り景色と風を楽しんでいた。
- 日本が初めての参加者も多かったが、日本人がとても親切で協力的、言葉が通じなくても暖かいおもてなしを感じたという声が多かった。

2 招請事業の詳細

▼ 第4日 2016年5月21日(土)



〈写真4-1〉 ブルーフィールド朝食

ブルーフィールドでの朝食は、天候にも恵まれとても気持ちのよい時間が過ごせたようだった。パン、コーヒーの洋食の朝食を食べることが出来、満足していた模様。食後すぐ、フェリーで鳥羽へ移動。



〈写真4-2〉 伊勢神宮 外宮参拝

鳥羽から伊勢神宮の外宮へ。神饌としての日本酒など、御食国ならではの光景に触れることもできた。左右対称な神社の美しさとスケールに感激していた。



〈写真4-3〉 おはらい町 おかげ横丁

1時間程度、自由行動。赤福茶屋で甘味を頂いたり、陶器を購入したり、和紙などのお土産を購入したり。朝食をしっかり取ったので、食事をする参加者は少なかったようだ。

ツアーの行程が終了し、帰国組はそのままバスで関西空港へ、延泊組は伊勢神宮へ残り解散となった。